



No.206

ウトナイ湖通信

2021年7月号



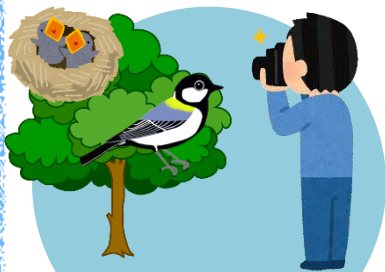
ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

～ 観察路を、歩かれるみなさまへ ～

今この季節、ウトナイ湖周辺を歩くと美しい野鳥の声が聞こえ、花が咲き、涼しい風を感じ、夏の清々しい北海道の空気を感じることができます。

清々しさを感じる私たち人間とはうって変わり、この時期に命をかけ、必死に毎日を送っているのが野生の生きものたちです。この時期は、野鳥を始めとした様々な生きものたちの子育てシーズン（繁殖期）です。散策の際は、繁殖期で神経質になっているウトナイ湖の生きものたちを驚かすことのないように、そっと自然観察を楽しみましょう。



野鳥の巣や、巣立ちを迎えた幼鳥に近づくと、成鳥であっても同じ個体を長時間観察することはしないでください。子育て放棄などに繋がります。



自然の中で、大きな声で騒ぐことや、野鳥の声を流すことは、やめましょう。野鳥を驚かせ、混乱させてしまいます。静かに観察を楽しみましょう。



エサをくわえた親鳥は、人が見ていると警戒して、巣に戻ることができません。そっとその場を離れましょう。

～ ヒナを拾わず、見守ってください ～

野鳥の子育てシーズンに入ると「野鳥のヒナを見つけました」「ヒナを拾いました」などの問い合わせをくださる方が多くなります。何らかの原因でヒナが巣から落ちることもありますし、すでに親鳥と行動をとるとし、生きる術を教わっている最中に一時的にはぐれることもあります。また、人が近づいた際に幼鳥だけ逃げ遅れる場合もあります。

いずれの場合も、ヒナや幼鳥の近くに人がいると、親鳥は助けたくても助けることができません。近くにいる親鳥が戻ってくることが出来るように、そってその場を離れてください。



万が一、ネコやカラスに襲われそうな場所や交通量の多い場所にいた場合は、近くのしげみなどに移動させてその場を離れてください。（サギ類などは触ると危険です。ご注意ください。）

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2021年6月23日(水) 10:00~11:55

センダイ
ムシクイ



チヨ、チヨ、
ピー

ツツドリ



ポポー、
ポポーポポー

《野鳥》アカゲラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ニューナイスズメ、アオジ、センダイムシクイ、ウグイス、ヤブサメ、カワラヒワ、キジバト、ツツドリ、カッコウ、クロツグミ、ヒヨドリ、トビ、オジロワシ、アオサギ、種類不明ヒタキの仲間
《植物》【花】クサノオウ、オオダイコンソウ、ニガナ、ヤナギトラノオ、ヒオウギアヤメ、コウリントンポポ、ムラサキツメクサ、ホザキシモツケ、マユミ 【葉】ノコギリソウ、ナガボノシロワレモコウ、ハッカ、シロネ、ツリフネソウ、キツリフネ、ハンゴンソウ
【実】ヤマグワ、ミヤマザクラ、ズミ【若い実】エゾニワトコ、ヤマブドウ、カラコギカエデ
《その他》エゾシロチョウ、フタスジチョウ、クロヒカゲ、ハンノキハムシ、エゾハルゼミ、シオヤトンボ、ジョウカイボン、オカモノアラガイ、シマリス

【水鳥カウント調査結果】

2021年6月17日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * () 内は、個体数の意味

コブハクチョウ(1羽)、オオハクチョウ(2羽)、アオサギ(2羽)

オオジシギ(1羽)、トビ(4羽)、オジロワシ(2羽)

チュウヒ(1羽)、ハクセキレイ(1羽)



ハクセキレイ



アオサギ



オオジシギ

7月の自然予報

植物の開花が見られます。



ウトナイ湖やその周辺では、生きもの(動植物、昆虫、魚類等)の採取はできません。

ホザキシモツケ

(バラ科) ピンクの花



木道脇などに見られる低木です。小さな花が集まる「集合花」が見事です。本州ではあまり見られません。

ノイバラ

(バラ科) 白い花



直径2cmほどの花が咲く低木です。当センター周辺や、オタルマップ川近くで見られます。

トモエソウ

(オトギリソウ科) 黄色い花



高さ50cm~100cmの多年草。観察路の木道脇などに見られます。花の直径は3cmほどで巴模様の形をしています。

爬虫類の姿が見られるかもしれません。

ニホンカナヘビ



全長16~27cmほど。観察路の木道上などで休んでいることが多いので、踏まないように気を付けてください。



シマヘビ

全長80~200cmほど。観察路の日当たりの良い場所(木道等)で休んでいることがあります。毒はありませんが、威嚇することがあるので、見つけたら、いなくなるまで遠くから見守りましょう。

ウトナイいきもの図鑑

【コヨシキリ】

全長約13cm。雌雄同色で全体が淡い褐色、目の上に白、その上に黒い線模様が入る。ウトナイ湖には夏鳥として飛来する。湖岸沿いで、ヨシヤススキなどにとまっている姿が見られる。オスは「ピリリ、ジョジョジョ、ジジジ、ジョジョジョ・・・」と連続音した騒がしいさえずりをする。



※さえずり…オスがメスへの求愛や縄張りの主張で出す声

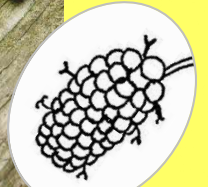
ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. この時期、自然観察路で一足先に実が熟す樹木があります。この実は、昆虫や野鳥に大人気です。さて、その樹木は何でしょう?



実は5mm~15mmほどの大きさ



熟すと紺色に

落ちた実を吸うキマダラヒカゲ(チョウ)の仲間まるで、天然のジュースサーバーのよう

- (あ) ヤマグワ (クワ科) (い) ズミ (バラ科)
(う) マユミ (ニシキギ科)

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

フルマカモメ

原因：人工物衝突疑い



初診時



6月5日

死亡

8:00頃、市内の住宅街で動けずにいたところを市民が発見し、当センターへ搬送。

初診にて、左眼の負傷を確認し、消毒と点眼薬投与を行う。眼以外には外傷は認められなかったが、体重は少なく、著しい衰弱が見られた。しばらくの間、保温・安静にし、ワカサギの給餌を行ったが吐き戻しをしてしまう。

回復の兆しなく、翌日死亡。

通常、外洋の海域で生息している種だが、前日大荒れの天気だったため、強風で陸へ飛ばされ、負傷したものと思われる。

フルマカモメ (ミズナギドリ目 ミズナギドリ科)

全長48cm。雌雄同色。ずんぐりした体型で、カモメの名がつきますが、カモメではなくミズナギドリの仲間です。ほとんど潜水はせず、海面を遊泳しながら甲殻類や小魚などを捕食します。くちばしの半分もの長さがある管鼻を持つことから、嗅覚が発達しているといわれています。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター



【ウトナイ湖・夏のウォークラリー】

2021年7月22日(木・祝)～25日(日)、31日(土)

8月1日(日)、7日(土)～9日(月・祝)、14日(土)、15日(日)

時間: 10:00～16:00

一周約500mの自然観察路に設置されたクイズに挑戦していただきます。

設置されたクイズ解答記入用紙をもって、ご自身で順路に沿ってクイズをといていただく内容となります。参加賞もご用意しています。



※新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言などで、中止となる可能性がございます。ご了承ください。

市民ギャラリー

第17回 野鳥展 (海鳥)

日時: 開催中

7/25日(日)16時まで展示しています。

展示: 笠水上 徹明 氏

内容: 海鳥の写真の展示です。



お知らせ

当センターの開館につきまして

当センターは、5月16日より北海道全域に発令された新型コロナウイルスに関する「緊急事態宣言」で、臨時休館していましたが、宣言が明けたため、6月22日より開館をしています。

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間: 午前9時～午後5時 / 休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

